

ベンチを活用した切花用隔離栽培システムの構築

【研究概要】

若者の花離れや贈答用需要の低下等にもともない鉢花単価は下降を続け、鉢花を主体とした花き経営は年々厳しくなっている。一方、東京の直売切花栽培は売り上げが堅調であるが、トルコギキョウやなでしこなど一部の切花で立ち枯れ病やセンチュウなどの土壌性病害虫が生産現場で多発するとともに、土耕栽培における定植、芽整理、収穫などの作業時の身体への負担が大きな問題となっている。

諸問題解決に有効であると考えられる既存の鉢花ベンチを活用した切花用隔離栽培（少量培地）システムを活用し、適性のある切花品目を検討するとともに、新規就農者や高齢生産者が安価で、容易に取り組める直売切花向けの隔離栽培システムを構築することを目的に試験を実施した。その中で今年度は下記の3つの成果が得られた。

- （1）切花形質や収量等からケイトウ「センチュリーレッド」、マリーゴールド「ガルーダオレンジ」の3.5号黒ポリポットを用いたポット栽培では2本植えが有望である。
- （2）残土を用いたアスターのポット栽培では切花形質に問題がなく、残肥によるECの上昇は一部みられるものの、病害虫等の発生もみられない。
- （3）収穫時の作業性は慣行地植え栽培よりも既存ベンチを活用すると向上する。また、ストック「ファミリーピンク」のポット栽培では切花形質、収量から5号鉢が適する。